

養父市輝く地域サロン vol.1

開催レポート

～講師 谷口 和幸さん（高柳上区 区長）のご紹介～

南但消防本部養父消防署長を退任後、養父市危機管理室で危機管理監を務められました。令和6年度より八鹿町高柳上区の区長として、より多くの区民の声を聞くため、区の事業に女性の意見を取り入れる仕組みをつくるなど、世帯主（主に男性）の意見に偏らない、多様な組織づくりに向けた取り組みをされています。

区長就任のきっかけ

消防署長を退任する際に一度打診があったものの、市役所危機管理室危機管理監へ就任する話もあったためお断りされました。危機管理監時代には、男女共同参画の観点で実施した管理職研修にて意識が変わり、「このままではいけない」と感じられたそうです。

そして危機管理監退任のタイミングで再度打診があり、令和6年度より区長として地域づくりに努められています。



区長を動かした地域女性の声

区長に就任してから、そのお人柄からか、区民から様々な地域の困りごとが聞こえるようになりました。その中でも、「行事の際に女性ばかりが食事の用意等の仕事をしている。お酒の席では男性に命令されたこともある。それが苦痛で行事に参加したくない。」などの声があり、谷口区長は区長就任後、半年でその仕組みを変えました。

これまで婦人部が担っていた役割は、規約を変え、隣保ごとで男女問わず担当する当番制にしました。これまで男性ばかりだった区の役員選考委員は区内3組の組長に加え各組男女1名ずつ、計9人編成に変更したことで、区役員の決定過程に女性の声を取り入れました。

今では、定例の地域行事に加えて、区民の女性が集う場が欲しいとの要望に応え、「ニコニコ会」と称した女性たちの集まりのために、月に一度公民館を開放しています。



しかし現状は・・・

規約を変えて、従来のわずらわしさがなくなったことでポジティブな声が聞こえる一方、役員（3役）に女性が就任することにはまだまだ課題が残るとのこと。

より視野の広い地域運営につながることや、区内の女性の声をより吸い上げやすくなることを目的に、区長の想いとしては区の3役（区長・副区長、会計）の中に女性が入ってほしいという希望はあるものの、役員を女性の支える家族の存在や、女性への意識づけ、誰もが役員として参加しやすい雰囲気づくりが必要です。比較的若い世代（40代以下の世代など）は、共働きの主流化や時代の流れで家庭内での家事役割分担が自然にできているようですが、高齢世帯では今もなお、「家の仕事は女性の仕事」という意識が根強く、夜の会議に女性が出席するにはハードルが高いようです。高柳上区を含む高柳地区自治協議会では「男の料理教室」事業で男性の家事意識を高めており、区長自身も参加しているとのことですが、区民へのさらなる啓発が必要です。

参加者からの質問

- Q. 規約改正の際、特に男性にとっては区の仕事が増えかねない内容だが、反発はなかったか？
- A. 規約の改正については「時代的にそらそうやわな」と肯定的な意見が大半であり、反対意見はごく少数派だった。
- Q. 役員に女性を入れようとする動きについて、役員にのしかかる責任問題をどう考えているか？例えば、業務内容の引継ぎが丁寧にされれば、負担が減ると思うが。
- A. 高柳上区では、代々区長に引き継がれている引き継ぎ書がある。歴代の区長が必要だと思ふことを書き加えている。文書によって見える化している分、詳細な引継ぎがなされていると考えている。



ワークショップ

「総会に女性が出席しやすくするためにはどうする？」

- ・ 18 歳以上の区民一人一票制
- ・ 日時見直し（平日夜は出にくい…）アンケートで希望をとるのはどうか？
- ・ 女性だけの総会も開催してみてもは？
- ・ 総会の時間を短縮するよう努める
- ・ 普段から、区の意見箱をつくる（意見を出す、受け入れる雰囲気づくり）
- ・ 出席しても意見しにくい…知り合い、友達がいれば前向きに考えられそう。
まずは無理にでも女性同士で誘い合っでの参加を促す
- ・ 楽しいアイスブレイク
- ・ 女性が参加した世帯にはお土産を配る！？

など



「若い世代も地域に巻き込むためにはどうする？」

- ・ 公民館に気軽に寄れる雰囲気づくり
- ・ 夫婦・家族で参加できる仕組み
- ・ 「行かなあかん」→「行きたい」意識に
- ・ 区民同士で助け合っって子どもを見る（その間に子育て世代が集まって会議や行事）
- ・ 会議の意味を明確に
- ・ 子ども会と一緒に区の行事を
- ・ 若い世代に好きに企画してもらおう（予算を充てる）
- ・ やる必要のないものはやめる

など

